

ピースツーリズムの「目指す姿」

- 国内外からの来訪者が、広島、
 - ・ 被爆前の歴史・文化や市民生活
 - ・ 原爆による破壊とその後の苦難
 - ・ 復興に向けた市民のたゆまない努力によって築かれた今の姿
 - ・ 被爆体験の継承と核兵器のない世界の実現への取組
 に触れ、思いを馳せることができるような、丁寧な案内を提供していく。
- これにより、来訪者とこれを迎える市民の双方が平和とは何かを考え、共感し、平和への思いを共有していく。
- 来訪者がその後において、核兵器廃絶・世界恒久平和の実現に向けた行動を起こすことへの動機付けに繋げる。そのために、来訪者が広島に関する情報をしっかりと受けとめ、考えられるよう、市民と共にピースツーリズムを推進していく。

取組方針

- 国内外からの来訪者に、平和への思いを共有してもらうことを目的に、その手段としてツーリズムを活用し、市民や事業者等とともに持続可能な取組を推進する。

取組概要

情報発信について

- まずは、外国人旅行者や修学旅行生を対象に、被爆の実相を伝え、共に考え、平和への思いを共有してもらう。また、現実の被爆の痕跡や人を通じて被爆の実相を伝えることの重要性を基本認識として、バーチャルな方法も含めた様々な発信内容・方法とする。

伝える内容

- 訪れた場所における被爆の実相のみならず、被爆前の歴史、被爆後から復興に向けて市民が取り組んできた様子も伝えていく。

発信方法

- 来訪者のことを知り、来訪者の視点に立って情報をきめ細やかに伝えていく。
- 来訪者の多様な興味・関心に応じた情報提供ができるようにしていく。
- 来訪者が分かりやすいよう、情報への到達のしやすさ、イメージのしやすさを追求していく。
⇒現実の被爆の痕跡や人を通じて被爆の実相を伝えることの重要性を基本認識として、バーチャルな方法も含めた様々な発信内容・方法を検討するが、まずは、スマートフォン等を活用した方法から着手していく。

スマートフォン等を活用した方法

- 訪れた場所の被爆の実相といった基本となる情報に加え、関連する情報も発信する。
- 来訪者の興味、関心及びニーズに応じて、自由にルートや目的地を選択可能とする。
- ひと目でルート、目的地及び自分の位置などが把握でき、必要とする情報までの操作が容易かつイメージできる画面の内容とする。
- 来訪者が必要とする情報へ簡単に到達可能とする。

来訪者を迎えるにあたっての環境づくり(ルート設定等)について

- 広島への理解を深めてもらうことを基本に置き、被爆前からの歴史・文化や復興してきた足跡なども理解できる場所を巡るルートとする。
- その際、関連の場所を巡るだけでなく、平和について考えることができる場、休憩の場なども含め、来訪者に広島として伝えたいテーマを感じることができ、かつ、来訪者が巡りやすいルートとする。
- ルートの設定にあたっては、1つのルートに限らず、伝えたいテーマ、地理的な範囲、移動手段等を考慮した複数のルートとする。

ルート設定の基本的な考え方

- 来訪者が関心のあること(被爆の実相や被爆前からの歴史・文化、復興してきた足跡など)や、滞在日数等の旅行条件に合わせて選択できるように、複数のテーマとストーリーを設定していく。
- その際には、来訪者が考えることができるよう、またニーズに応じて選択できるように考慮する。
- 来訪者が、ルートの途中でやめたり、ルートの一部を変更できるなど、自由に巡るようにする。

考慮すべき事項

- 来訪者が巡りたいポイントをおさえて快適に周遊できるよう環境等の整備を行っていく。

平和に関連する場所

- 53箇所(別紙1)

基本ルート

- (別紙2～5)
 - ① 徒歩と自転車(ピーすくる)による被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート
 - ② めいぶる～ぷと徒歩による被爆前後の文化・文学を巡るルート
 - ③ 徒歩と自転車(ピーすくる)による市民生活の復興を巡るルート
 - ④ 徒歩による被爆に関する資料館を巡るルート

迎える市民の積極的な関与について

- スマートフォン等の情報端末により、ルート案内や施設解説をするのみならず、市民と触れ合いながら巡る方策に取り組む。

迎える際の対応

- 平和関連施設・飲食店等の従業員を始めとした市民が、来訪者に説明、案内等ができる環境づくりを行う。
- 来訪者が、広島が平和を希求する街であると実感できるような施策を展開していく。

関与のあり方

- 市民が来訪者と関与・交流できる場の設置や、市職員の積極的な関与などの対応を進めることにより、市全体の力を結集させていく。

ピースツーリズム推進に際して今後留意すべき事項

- 市民等との協調体制の構築 市民等に好意的に協力してもらえるような体制づくり
- 平和と文化の一体的な推進によるヒロシマの発信 中核となるべき関連施設における発信力の強化
- 平和記念資料館や関連する被爆の痕跡等の発信力の強化 関連施設や館外の被爆遺構などとの一体的な活用
- 拠点施設の確保等 市民と旅行者の接点となる場所の設定と滞在時間の延長方策の推進
- 今後のピースツーリズム推進事業の展開に際しての調整・チェック機能の構築 ピースツーリズム推進懇談会の継続実施